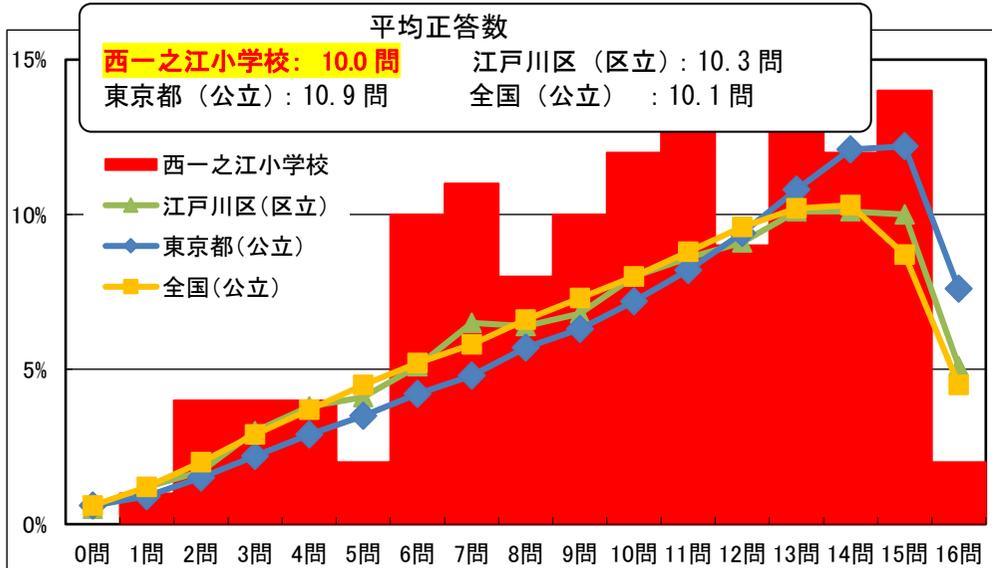


# 令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 西一之江小学校

## 正答数分布



## <四分位における割合(都全体の四分位による)>

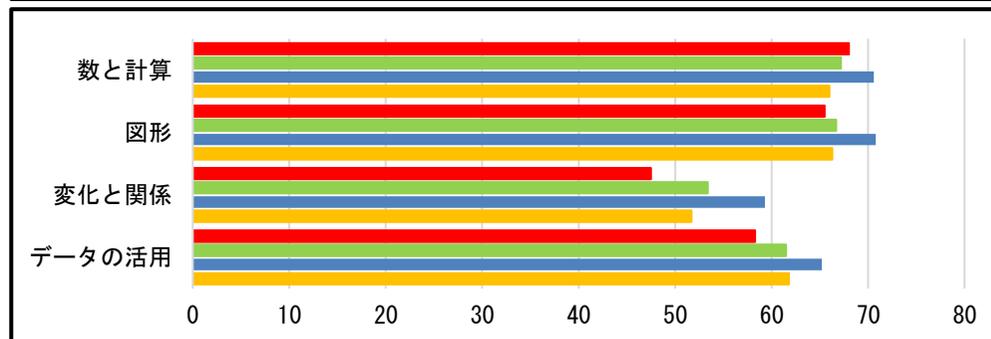
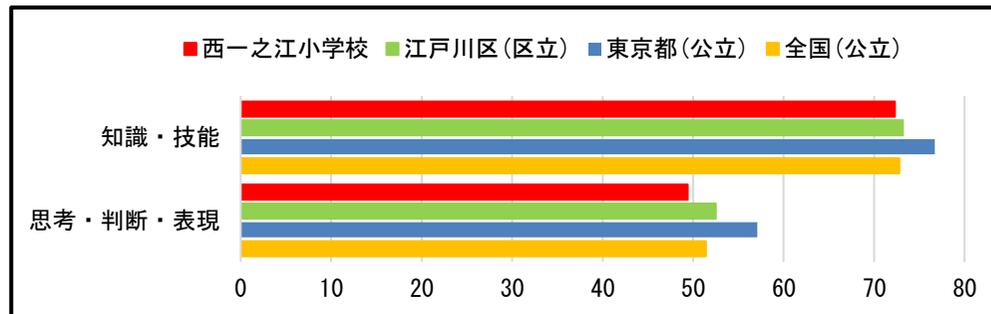
算数	上位 ←		→ 下位	
	A層 14~16問	B層 12~13問	C層 8~11問	D層 0~7問
西一之江小学校	21.8	17.1	33.4	27.7
江戸川区(区立)	25.2	19.2	29.8	25.8
東京都(公立)	31.9	20.2	27.4	20.5
全国(公立)	23.5	19.8	30.7	26.0

## 【平均正答率の差】

西一之江小学校	62.0%
江戸川区(区立)	64%
東京都(公立)	68%
全国(公立)	63.4%
都との差	6ポイント

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

## 「領域別」の結果



## 【分析結果と授業改善に向けて】

△区・都・国の平均を下回っている。知識・技能の評価面よりも、思考・判断・表現で差が大きくなっている。  
 →習熟度別展開の理解度に応じて日常生活への適用や学習したことを生かして考える問題に取り組む。  
 △領域別では、特に「変化と関係」の領域で大きく平均を下回っている。  
 →5年生で学習する「変化と関係」に関する単元について反復した復習を行う。  
 →学習内容をより理解できるように数直線や図を活用して問題解決する指導を行う。  
 △四分位層では、AB層が4割、CD層が6割という傾向は昨年度と同様である。  
 →基礎的な学習の積み重ねを図り、個に応じた指導を行う。